



第14期第5回 概要報告

令和5年5月19日、第5回生涯学習推進委員会議が開催されました。令和5年度最初の委員会では会議開催予定、交代された委員の紹介、事務局体制紹介につづき議題に入りました。以下、概要をお伝えいたします。

～委員の交代～

番町小学校校長 傳田 学委員から麴町中学校校長 堀越 勉委員へ交代されました。



～事務局体制～

佐藤文化・スポーツ担当部長、橋場生涯学習・スポーツ課長、田村管理係長、五月女、室木、運営支援として Anchor 山岸、三原です。どうぞよろしくお願ひいたします。



1. 現在議論している2つのテーマについて

●今後の会議の進めかた

これまでの議論で集約されたテーマ「部活動の地域移行に伴う生涯学習の役割について」「千代田区の特性を踏まえた生涯学習の在り方」についてバズセッションシートを用い2つの分科会で議論し共有。9月:骨子作成、1月:素案作成、3月:区長へ報告書提出予定。

●分科会に先立ち、前田会長より資料「千代田区の特性を踏まえた部活動の地域移行、青少年の居場所」について説明があった。

スポーツコミッション(スポーツを通じて地域活性化や地域経済に貢献するための組織)の例として葦崎スポーツコミッションを説明。葦崎市の例を基にインナー施策(地域スポーツ振興体制の再生)とアウトター施策(スポーツツーリズムの確立)として考えると、千代田区はインナー施策として体育協会や富士見総合型スポーツセンターなど活動拠点を統括する「千代田スポーツコミッション」が司令塔の役割を担うものとなるのではないかと。また、それをどのように組み立てていくか検討が求められる。

青少年の居場所の課題として、杉並区「ゆう杉並(児童青少年センター)」の運営を例にすると、千代田区では4つの児童館があるものの、利用者のほとんどが幼児と保護者であり、青少年向けに作られていないのではないかと。地域スポーツと生涯学習をつなぐ必要性が報告された。

●子ども部山本指導課長より「千代田区における部活動の現状と課題」、取組と今後の方向性について説明があった。

令和5年～7年度の3年間は、国や東京都の改革推進期間として千代田区でも取組を開始。学校の管理・運営のもと、地域の方々とのつながりを重視しながら、校内や地域に専門的指導が可能な人材がいない部活動に関しては、外部人材、委託事業者を活用、部活動指導や引率を望まない教員の業務撤廃、学校連携と地域連携、地域移行を進めたい。

2. 分科会の議論 概要

第1分科会 「部活動の地域移行に伴う生涯学習の役割」

- ・教員の中にも温度差はあるが、引率や生活指導も含まれる部活動・区民大会を地域や保護者をお願いしたい教員がほとんどである。
- ・教員は異動するため、地域人材バンクがあると学校は助かる。
- ・部活動を想定した人材バンク、青少年の居場所の仕組みがあればよいのではないか。
- ・技術指導と合わせた引率や生活指導、地域と連携でき、信頼できる指導者が必要。
- ・区のレベルでは部活動が内申書に影響することはない。
- ・千代田区では部活動はできているし指導者の派遣体制もある。課題は大会の運営問題や、部活ありきの保護者への対応、教員の熱意の受け止めである。
- ・千代田区の教員意識は授業に向いている。千代田区の特徴は「ゆる部活」。能力のある子は地域でやっていて進学しても継続し、地域の指導者として帰ってくる道筋は見える。
- ・「ゆる部活」を前提とした地域コミュニティ、つながり、生涯学習分野の役割を提言の方向としてはどうか。

- 4つの論点①人材バンク的な地域の受け皿
②ゆる部活を基本としてよいか
③地域移行のメリット、デメリット
④中体連等の大会に関すること



第2分科会 「千代田区の特徴を踏まえた生涯学習のありかた」



●「ちよだ生涯学習カレッジ(ちよカレ)」について

- ・公共性ある施策の一環として活躍する場面(出口)が見つからない。
- ・創設時の理念「千代田区の課題に取り組む人材を輩出」は、具体的にはコミュニティ、町会の担い手不足、高齢化や参加率の低下などの現実をコミュニティの中で解決を担う人材育成を目的としている。その効果があったのか検証が必要。
- ・卒業しても地域にフィードバックがない。目的意識を持ち、具体的な活動につなげることが重要。
- ・「学びと地域のコーディネーター」から 10 年経過し、コミュニティの仕組みも変わってきており、コーディネーターになりたい人がいないのではないか。
- ・コーディネーターの役割、イメージがまとまっていない。
- ・コミュニティ総務課におけるコミュニティ活性化に対し、生涯学習・スポーツ課は人材育成の役割とすれば、育成する人材を明確化する必要がある。
- ・ちよカレが千代田区の特徴、公共性をベースとしたコーディネーション力、コミュニケーション力を学ぶ場として町会の方々にも参加してほしい。
- ・若い方々に参加してもらうためには社会課題の取り組みを通して自分の将来に役立つ、つながりができることが重要。
- ・ちよカレがどうあればよいかを、各委員の提案書を書いてはどうか。
- ・第1分科会の議論「部活動の地域移行」との共通テーマを探り、千代田区の特徴を生かした生涯学習の基本的な考え方に収斂していきたい。



「民生児童委員として」

上村 友子

民生児童委員になって10年が過ぎました。

受任当初は、何もわからず、まだまだ民生児童委員の存在をご存じない方が多い中、どのように活動していったらよいのかわかりませんでした。親切とお節介の中間くらいを目指して、地域の方と関わっていきこうと私なりに考えるようになりました。

ご近所さんとのかわわりが煩わしくて、関わらなくてよい地域をえらんで転入されてきた方々とあえてかわわりを持つことは難しいことです。そもそも必要ではないのかと考えることもあります。それでも、ありがとうと感謝の言葉を受け取ったとき、心を開いてくださっていることを感じるときなどやりがいもあります。

そんな模索の中、コロナ禍になりました。出歩くこともためらわれ、訪問することはおろか、道でばったりお会いしておしゃべりすることもできなくなりました。民生児童委員の得意分野である関わり合いが悪いことのようになってしまう、途方にくれました。何もできないまま、今できることは？と、オンラインで研修を受けたり、スキルアップにつながればと非接触の形で学びの時間をもちました。

そして、最近、やっと少しずつ対面の関わり合いができるようになってきました。当たり前が当たり前ではないことを知った今は、ちょっと困ったとき、だれに相談したらいいのか迷ったとき、民生児童委員を思い出してもらえようまた、少しのお節介と親切で関りを自分なりに築けたらと考えています。



「生涯学習は『実践』と『学び』の繰り返し」

及川 浩二郎

定年間近だった2017年にふと目にした一枚のチラシ。それは新しく始まる「ちよだ生涯学習カレッジ1期生募集」の案内でした。仕事一筋の会社生活から仕事をしない定年後の生活への漠然とした不安。その不安を解消するヒントが「学び」にあると思い「ちよカレ」に入学しました。

隔週2時間の授業で34名と2年間学びました。その中で建築家の成瀬先生の授業で出された宿題が印象的で、「千代田区で知り合い3名にインタビューをせよ」というものでした。私自身「近所に知り合いがない！」と愕然、全く地域社会との接点がなかったのです。

そこで答えを与えてくれたのが「ちよカレ」でした。ボランティアとは何か、地域活動の意義とは何か、などの理論を学びました。地域活動を実践されている方々の講話も聞きました。卒業時には自分でもできそう、やってみよう、という気持ちになりました。

学びの次は実践。まずシニアの仲間を集めて「サンサン会」なるボランティア団体を結成。次にちよだで友達作ろう、のキャッチフレーズで「ちよとも」を運営。そして地域活動の本丸の「町会」へ飛び込む。つい最近では防災をテーマに勉強会をする団体を設立。いつの間にか街では普通にあいさつを交わす人が増えました。

実践することの難しさや苦しさもありますが、「実践」と「学び」を繰り返すことが大切だと考えます。ちよカレ1期生の学びから6年後の7期生として今再び「学び直し」に挑戦しています。